

面を付けた役者が演じる舞が年に1回、昔のままの様式で上演され、それは民族の安寧と五穀豊穡を巫女(みこ)が神に祈る儀礼なのだという。11~12世紀の作と推定される仮面が11個、近年まで上演に使われていたが、いまは博物館に収蔵されている。

エリザベス英女王も滞在したその集落を訪ねる時間がなかったが、約1000年前の仮面をかたどって彫った木製のループタイを市長さんから頂いた。日本の翁面より彫りが深く、目鼻口の造作が大きくて派手に見えるが、雰囲気はよく似ている。実物と同じく、見る方向によって喜怒哀楽の表情がさまざまに現れる優れ物だ。河回洞の集落は2年前、ユネスコの世界文化遺産に登録され、現地でタルと呼ぶ仮面の名も世界に知られるようになった。

去年10月、安行さん、松住さんと中国・西安を訪れた帰途、上海空港で出国審査の行列に並んでいた。インスペクターの窓口が10箇所ほど開いている。順番が来て整理の役人に指示された窓口でパスポートを差し出すと、あか抜けたアラフォーの女性インスペクターが顔を上げ、私の胸元を指さして「アッ」と小声で叫んだ。それを聞いて、私の声帯も同じ声を反射した。私はそのとき、河回洞の翁面のループタイを締めていた。

同年5月に逆上る。江南地方へ安行さんと中国地酒探訪の旅に出て、上海空港で入国審査の窓口に入ったとき、「オヤ」と思った。無愛想な中年男が多いなかで、その窓口は思いも寄らぬ若々しい美人のインスペクターだ。私服とおぼしきシックなスーツに一瞬見とれた。彼女は私の顔と手元のパスポートの間に何度か視線を走らせたあと、私の胸元を指さして「Very nice」とささやいた。指の先に、河回洞の翁面があった。とっさに私も「Very nice to meet you」と返すと、まぶしい瞳がニコッと笑った。

韓国の人も日本人も、それぞれに祖先は民族の安寧、五穀豊穡を願いつつ日々の生活を重ねてきた。現代に生きる私たちにも、同じ願いや思いが翁面という両者に共通の文化遺産を媒介にして伝わってくる。典型的な現代の中国人である彼女に、同じものを「Very nice」と感じさせるものは、いったい何なのだろう。その背後のどこかに翁面の文化が潜んでいるのだろうか。

その問いへの答を見出せないまま、この年2度目の中国訪問を終えようとしたときに、不思議な再度の出会いが起きた。めざす答には到達できなかったが、翁面が宿す縁の力は民族の別を超えて作用するものであることは、認めないわけにいかない。

私の「第九」未完成！

福田 紀六

年の瀬のある新聞の投稿欄に「第九」について以下のようなことが書いてありました。

「今年の私には今までとは異なる情景でした。『第九』は四つの楽章から出来ていてそれぞれ意味がありますが、『押し寄せる大津波』『破壊された町、がれきの山』『美しかった以前の海や山、町』が浮かび、第4楽章では、静けさの中から『喜びの旋律』が響き始めそれは大河となって終局へと向かったのです」。

音楽音痴の私には、「第九」の4楽章をすべて聴いたこともなかったが、妙にこの投稿

が引っかかり始めて全曲を聴いてみようと思いたった。

暮の24日、NHKFMラジオで放送されることを知り、古いラジカセを見つけ出し、母さんに録音をお願いして、今年…回目の忘年会へとそそくさと出かけた。

翌日、早速1時間余の「第九」をと意気込み、耳がすっぽりかくれるヘッドホンで聴き始めた。1楽章、2楽章と進み、なじみの深いターンタタ、ターンタンの心地よいリズムが始まりいよいよ「喜びの楽章」になるところで録音は中断されていた。

年代物のラジカセと使いかけのテープであり、母さんを責めることもできず仕方なくレンタル店へと車を走らせたが途中でふと、行くことを止めた。

「喜びの楽章または歓喜の終章」は、まだ聴く必要がないことに気付いた。なぜなら、東日本大震災の復興は、まだ始まったばかりであり、原発の処理は20年30年かかるという。核兵器や原発がこの地球上から完全になくなってから聴けばいい。と変に納得して引き返した。

—— なかんづく 桜花芽の 堅きかな ——

『あけまして…』

櫻木 大祐

あ 悪意の朝の雨宿り、頭の中の青い影。

け 結局今朝のゲルニカで、喧騒ゲームの月曜日。

ま 毎晩毎度の満喫は、祭りの後の曲がり角。

し 思春期時代の情報は、冗談まがいの思考力。

て 天井知らずの諦念は、適当会話のデメリット。

お 終わった大人の女の子、奥手の男におめでとう。

め 巡り巡ったメビウスは、迷惑メールの召し使い。

で 電気仕掛けの凸凹は、出来高払いのデザイナー。

と 通りすがりの同人は、時計じかけの屯田兵。

う うっかり兎の運命は、嘘と現の美しさ。

ご ごめんなさいの午前中、豪華絢爛ごみひろい。

ざ 罪悪感の雑談は、残念賞の座談会。

い 一日限りの行き詰まり、陰影礼讃イノチゴイ。

ま 間違い続きの曲がり角、街を魔法で回してる。

す 進めススの数秒後、既に崇拜すみません…

年頭言 2012

旅人‘ぶら目玉’こと 松住隆夫

2011年に気がついたことは「持ちすぎはいかんなあ」ということだった。

家の中、一年以上触ってないものが結構ある。靴箱には、まだ履けると思って取っておいたのに結局一度も履かなかった靴が何足もある。本棚には、これまた一年以上一頁もめくってない文庫、新書、単行本が眠っている。着なくなった服、聞かなくなった大量のCD。埼玉にある自宅は、考えてみれば物だらけだ。

昨年、五月下旬から七ヶ月余、大分で暮らす経験をした。埼玉の家から必要最低限のものを持ち込んでの生活だった。靴は二足だけ、本も文庫と新書が一〇冊程度あるだけ、着るものも最小限、CDはiPodに記憶させて手のひらサイズにまとまった。

大分での暮らしを終えた昨年末、それらを宅配便で埼玉の自宅に送るため荷物にまとめたら、みかん箱三個で済んでしまった。

そうした大分での生活で「何か不自由あったかなあ」と振り返ってみたら、何もなかった。

その大分は、食べ物が美味しかった。特に魚の鮮度が抜群で酒のあてに最高だった。おかげで七ヶ月余りに9kg体重が増え、身体が重くなり、動きが鈍くなってしまった。「身体も持ちすぎはだめだあ」と反省した。

ということで2012年の年頭言は「持ちすぎない」。

不要なものはそぎ落とし、シャープに生きる、ということで行きたいと思う。

いいこと言うなあ、こんやた！

カレーと鍋島と ISO

はらぐちにお集まりのみなさん明けましておめでとうございます。
カレーと串カツが恋しいです。

本題ですが、安行さんのムチャブリはいつも突然です(笑)「鍋島の歌を歌ってください」から「**ISO**について記事をお願いします」まで…。今回も唐突な話に喜んで付き合わせて頂きます。

私の経営している株式会社 C&O (カブシキガイシャカンドー) は **ISO** コンサルティング、美容コンサルティング、学習コンサルティング etc…さまざまなコンサルティングをしていますが、実は昨年末、**ISO** コンサルのクライアントを全て切ってしまいました。というのも、「箔としての **ISO** は欲しいけど管理をする気はない」というクライアントばかりだったからです。非常に残念でした。ということで今年からはクライアントを厳選して **ISO** コンサルを行っていきたいと思います。

安行さんから言われたのは「**ISO** の事を簡単に、また、意義等々と低髓さんの取得のためのフォローのPRをお願いします」という内容でした。

ISO を簡単に説明すると、「**ISO9001** を取得している

ということは『この会社は品質管理においてきちんとした手順やチェックを踏んで、トップマネジメントをはじめすべての社員に品質に関して意識を強く持たせていますよ』というシルシ」です。**ISO14001** は環境管理、**ISO22000** は食品衛生、**ISO27001** は情報セキュリティ管理、**OHSAS18001** は労働安全管理、**P** マークは個人情報管理を示しています。私がメインにコンサルしている相手は医療機関なので **ISO9001** (どの **Dr** でも基準以上のクオリティであることを目指す…など) と **ISO14001** (感染防止、廃棄物の適正な処理…など) で必要なことは十分網羅できるのでこの二つがメインになります。ここで大切なのは「どのように目標(どの **Dr** でも基準以上のクオリティであることを目指す…感染防止、廃棄物の適正な処理…など)を達成するか、『**How**』を明確にしながら管理体制を作っていかなければならない」ということです。これらの管理に関する細かい項目は **ISO** (国際標準化機構) の定めた規格 (**ISO9001**、**ISO14001** 等) に明示されています。**ISO9001** や **ISO14001** というのは単純に規格の名前ということなのですが、これらを取得しているということには上記のような意味があります。生半可な覚悟、生半可な管理では取得できません。というのも、トップマネジメントをはじめ全社員が「仕組み作り」「作った仕組みの実行」「実行されているかのチェック」「チェック後の改善」、いわゆる **PDCA** サイクルを強要(?)されるからです。「書類を作りたくない」「今までは普通に業務していれば良かったのにいちいち管理するなんてめんどい」等々、不平不満が出てきます。コンサルタントとしては、客観的に見て「こうしたらそんなにめんどくないですよ」とか「こうしないと規格からずれることになってしまうのでこうしてくださいね」などとアドバイスをするのですが、そのアドバイスを実行しなかったり、審査のためにしか(業務改善・経営改善を目的とするのではなく単純に箔が欲しい)しなかったり…

こういったモンスタークライアントはいますね。一番びっくりしたのは **ISO14001** を取得するのに医療廃棄物を医療廃棄物として廃棄しない(違法行為)を平気でやっていて、

審査員に突っ込まれたときに逆ギレした Dr。悪い例ばかりになりましたが、**ISO** を効果的に運用できている所もあります。院長自ら指揮を取り「受付での待ち時間をなくす」「Dr の教育訓練を定期的にする」「患者さんとのコミュニケーションをしっかりとする」など、一般企業では普通に行われていることが医療機関ではできていないと自覚された方が率先して改善に取り組まれていました。意義というものは他人から言われて気付くものではなく、後から「やってて良かった」と思うものだと思いますが、強いて **ISO** 取得の意義を言うならば「率先して業務改善・経営改善・意識改革をやる上でもっとも近道となってくれる規格であるため、効果を実感するまでの期間が短い」ということでしょうか。（その分大変ですが…笑）

最後にフォローと言うことですが、正直「お客さんの目線」で仕事をできている組織は **ISO** なんかいらないと思っています。相手の目線で仕事ができないから規格に頼るしかないのです。先日私が美容室で「その新人さん、国家試験は受かってるんでしょ？私の髪切ってもらえないですか？」と言ったのですが、店長さんは「いえ、あの子は国家試験には受かっていますがうちの店の試験には通っていません。彼がお客様の満足の行くヘアスタイルにできると胸を張って申し上げることができないので申し訳ありませんがそれは出来かねます。」ときっぱり言いました。こういう所に **ISO** は不必要です。あってもなくても変わらないなら、不必要ですよ。でも病院の場合「うちには独自の試験はありませんが国家試験に受かっているから」とすぐに患者触らせます。たしかに触らないと新人医師は伸びませんが、患者に触らせるなら多少の試験くらいしてほしいと思いませんか？命に関わらない美容院が「国家試験には受かった（実技あり）けど、うちの試験に受かってないからお客様には触らせません」で、命にかかわる病院が「国家試験に受かった（実技なし）からインターン生だけ触らせませす」ってどうなんですかね…？ひどい病院では、ある科の医師が別の科の医師の成績を落とすたくて故意に「救急医療情報システム」を書き換えたという事件が起きました。救急車を受け入れる病院には「救急医療情報システム」があって、各病院で「この時間は脳梗塞 A の受け入れは可だが小児は不可」などといった情報を入力し、それが消防隊の使う端末に反映されます。だから嘘でも本当でも「受け入れ不可」となっていたらたら回しが起きます。こういったところには **ISO** は必要ですが、そういう所ほど取りたがりません。フォローになっていませんが、「グダグダな組織は私がビシバシコンサルします」とでも（笑）

ISO に関して特に PR することは無いのですが（強いて言えば「書類作りと仕組みを浸透させるのは大変ですよ（でもそもそもそれらが無いって組織としてどうなの？）」くらいでしょうか。ただ、多くの方に **ISO** の存在を知って頂いて「**ISO** を取っているってことはこの会社はしっかりしているんだなあ」「ここ、ずさんだけど **ISO** 取らないのかなあ」と思っただけであれば幸いです。

ちなみに弊社は **ISO** を取得していません（笑）取得費用って結構かかるんですよ。それに私がコンサルタントなので管理はそれなりに万全ですので必要ないかなと（笑）

もし、こんな **ISO** の記事を読んで「**ISO** 取りたいなあ」と思われたらご一報ください。審査費用を川畑価格（ウン割引）で受けられますよ（←これで PR ぽくなりましたね）

長文に付き合ってくださいありがとうございます。（今回はバンドの話も無く酒の話も無くつまらなかったと思います（笑）また次回おしゃべりしましょう！

仙酔島

清張の会事務局長：上田喜久雄

何となく今年はよきことある如し
元旦の朝晴れて雲なし

昨年11月26、27の両日、小説「内海の輪」の舞台となった鞆の浦、尾道を旅した。鞆の浦は、昔から瀬戸内の海上交通の要所として栄え、今でも江戸時代の常夜燈や雁木を残す歴史と文化の町でもある。

泊まりは鞆の浦の目と鼻の先に浮かぶ仙酔島で、島には坂本龍馬ゆかりの「いろは丸」（複製）で渡った。ちょうど夕陽が沈む頃でもあり、江戸時代この地を訪れた朝鮮通信使が「日東第一形勝」と絶賛しただけあって、おもわずその景色に見とれた。

鞆の浦周辺は、日本で最初に国立公園に指定（昭和9年）され、その名のとおり仙人が酔うほどの美しい景観であるが、その鞆にはもう一つ、忘れてはならない名産がある。保命酒（ほうめいしゅ）である。

鞆のシンボル常夜燈を囲むようにして6軒ほどの大店が並んでいるが、いずれも保命酒の店である。その中の一軒、「保命酒屋」に立ち寄り試飲をさせていただいた。どこかで聞いた味だな、と思いながら喉をくぐらすと、お正月にいただく屠蘇の味を思い出した。試飲だけでは悪いと思い、一本お土産に買って帰った。お土産とは名ばかりで、帰りの車中で空壇となったことは言うまでもない。

「文学のこみち「尾道」」は次号で。

【チャイ】

雪平 蓮

シンガポールでのこと。沢木耕太郎の深夜特急や、他にも題名を思い出せない本で読み覚えていたチャイがいきなり目の前に出てきて、少なからずカルチャーショックを覚えた。その店の存在はマンダリンオリエンタルホテルに他人の金で入り浸っていた時に言葉をかかわすようになったドアマンから教えてもらった印僑の経営するテラーだった。お恐れながらと店を訪れてスーツを誂えたいと伝えた所でまずチャイが出てきた。どうやら近くから出前で取り寄せた様で少年が運んできたのを覚えている。なんとなく話が纏るともう一杯。採寸しながら一杯。生地を選びながら一杯。仮縫いができたから一杯と店に行く度に温かく甘い一杯をご馳走になる。決して焦らずゆっくりゆっくりと話をする笑い顔のオーナーの姿に私の気持ちもチャイのように甘くゆらりと揺れる。ニッポン人はいつの頃か

らかこんな心の余裕を忘れてしまっているなあと、遠い赤道直下の地で思ったのである。

*作者の意向により、原稿のまま掲載しました。

福德ゑびす

蘇宅 韓五郎

ゑびす酒造(株)の田中専務から「ゑびす蔵感謝祭をします、都合がよろしければ是非お出かけくださいませ」と mail が入ったのが 11 月 2 日であった。mail には、“感謝祭のイベント内容”と“らんびきを呑む！うきは・山の手を食す！”が添付されていた。感謝祭は、11 月 12 日と 13 日の 2 日間で“らんびきを呑む！うきは・山の手を食す！”は 12 日の 19 時からであったため参加は諦め感謝祭のみ参加を決めた。

ゑびす酒造は朝倉市杷木町にある焼酎の蔵元で、30 年以上も前から“らんびきゴールド”を最良にしていた。勤めていた会社と取引があった会社の横にゑびす酒造があり、当時としては檜樽で長期熟成させた珍しい高品質の美味しい焼酎であったからである。

田中専務とは、以前からイベントがあった時、言葉は交わしていたが 9 月 27 日に門司であった福酒 500 万人プロジェクトでゆっくり話をして最後には、残っていた“らんびきゴールド”をいただいて帰って縁が深まった。

感謝祭の試飲には 10 種類が並んでいた。「ん… 米焼酎がある」「麦焼酎ばかりだったのでは？」と田中専務に疑問をぶつけた。すると「昔からあったものです、麦麴が 3 分の 1 で残りが米です、だから米焼酎です、珍しいですよ」「らんびきは米麴が 3 分の 1 で残りが麦です」と返事が返ってきた。早速、試飲をした。「美味しい、常温の 25 度の焼酎がどンドン喉を流れる」「これが、昔からある福德ゑびすですか、リーズナブルでいいですねー」。またまた、美味しい酒と出会った。自分に合う酒に出会うことは良い友と出会うのと同じで心を豊かにしてくれる。この楽しみは、下戸の人には分からないと思う。

“らんびきを呑む！うきは・山の手を食す！”は参加出来なかったので、来年は私が保管している“らんびきの古酒 2 本”の飲み比べをすることにした。古酒とは、“らんびきゴールド”の 20 年以上前のもの、もう一つは既に販売していない“秘蔵の瓶”で“らんびきゴールド”の数ランク上のもの。田中専務も「飲み比べ非常に楽しみですね」と。

小春日和の日に、中も外も心も温まり杷木から博多まで高速バスで帰宅の途についた。

「ゑびす、縁起がいいぞ」。

1 月 10 日の若松ゑびすに行こうと初めて思った。今年は「ゑびす」がキーワードになりそうな気がする？！

水もしたたる・・・(-_-;)

博多海鮮居酒屋はじめの一步：女将

実は・・・先週の月曜日大変なことが起きて・・・((+_+))

南区塩原に「はじめの一步」の事務所兼倉庫があるのですが、その日、出勤してドアの鍵を開けようとする・・・なんか様子がおかしい・・・(・_・;)

その事務所、ウチが借りる前は美容室だったようで前面がガラス張りでガラスのドアから中が見えるのですが・・・積んでいた醤油（業務用の四角のダンボール箱入り）が崩れ落ちてぐちゃっとなってるのがまず目に入りました・・・

おかしい・・・というか怪しい・・・

ま、ま、まさか！！ど・ろ・ぼ・う？？？ゞ(°ロ°)ノえ？え？入って大丈夫？

まだ中にいるかもしれんとよ~~~~~！！\(\◎o◎)/！

おそろおそろ、そーっとドアを開けてみる・・・な~~~~んだ、鍵かかっとなんやん！いくらなんでも鍵かけて逃げる泥棒はおらんやろ~~ガチャッ・・・鍵を開けてドアを開ける・・・パチン・・・電気をつける・・・

「あ！」なんだこりゃ~~~~！！(@_@;)書類が水浸しだ~~~~醤油のダンボールもグッチョリ！どうもその水の重みで落ちたみたい・・・出入り口のマットもびしょびしょ・・・

「ああああああ」どうなってんだ~~~~ゞ(°ロ°)ノ

奥に入ってみる・・・うん、奥は大丈夫異常はない・・・

ふ~~~~被害はとりあえず書類だけか・・・醤油は箱がつぶれただけで中身は無事だし・・・書類はデータ打ち込み済みの日計表だからまあ乾かせば保管できるし・・・

しかしいったいなんで？どこから水が来たんだろう？上の住人かな~~~~??などと考えつつ・・・動き回ったので暑くなって・・・ちょっとだけクーラーつけようっと・・・

「ん？」スイッチ押してもつかない・・・「は？」いや~~~~な予感・・・|||(-_-;)|||

ああああああ！！ブレーカーだ！！！！しかも動力！！！！ということは・・・

！！！！冷凍庫(°ロ°)！！！！！！4台ある冷凍庫のうち3台が動力、かたっぱしから開けてみる！！「だめだ！(>_<)！！」

中はすでに常温、通販の一步鍋のミンチ（200gずつ真空パックしたもの）にさわると・・・もちろん常温・・・(T_T)はじめの一步用のストックしておいた一夜干し、おばいけ、ほたるいか沖漬け、アイス、その他・・・みな常温・・・(T_T)

・・・しばし意識が遠のく・・・|||(-_-;)|||・・・時間が少し流れて・・・

そうだ・・・ブレーカー戻さなくちゃ・・・だってこのままじゃ腐ってしまう・・・(-_-;)ブレーカーあげると、なにごとにもなかったかのように動き出す冷凍庫たち・・・

とりあえず不動産屋さんにTEL。担当者飛んでくる・・・

いつ水漏れがあったのか聞かれたけど金曜の夕方から月曜日の昼まで誰もいなかったからワカリマセン。しかしこの融け具合を見ると今日じゃないな~~~~。

被害金額を出せと言われて計算すると原価で41万円。保険で出るのかな~~~~。

原因は上の人だろうとみんな思ってるけど・・・「配管に不備がありました。ブレーカーが落ちたのは水漏れによるものでした」と後日報告あり。

うそやろ・・・(´ε`)配管に不備って・・・どう見ても一気に天井の埋め込み型のエアコンから水が噴き出したとしか思えん・・・

まあ、いいけどね。このエアコンも壊れてて使ってないしね。ははは。

次の日、トラック借りて全部捨てにいきました・・・一生懸命1カ月かけて作ったミンチを捨てるのはつらかった・・・(T_T)
廃棄したミンチ、今から作り直し・・・商品いろいろ注文し直し・・・
間に合うと？わからんけどやるしかない。

初づくめ

響 金太郎

あけましておめでとうございます。
旧年中は大変お世話になりました。
今年もどうぞよろしく申し上げます。
サッターまで一緒にしてから、リーディング公演までいっぱいお世話になりました。
まだまだ未熟なわたくしですが、演劇を始めて3年、初めて演出にチャレンジします。たいしたことはできないとは思いますが、吉本先生とぜひ見に来てください。次に繋がるアドバイスがいただければ光栄です。

【公演のお知らせ】

くうきプロジェクト vol.90 ワンコイン実験シアター

初劇ゆにっと自由律 first stage

「どうしても…」

脚本：弘

演出：響金太郎・やすひろ

出演：北祐介（西南高校演劇部）猯りえこ・隣（Pandy & Co.）他

日時：1月21日（土）14時/16時30分/19時（開場は30分前）

場所：福岡市立青年センター（福岡市中央区大名 2-6-46）

料金：500円（予約・当日とも）

※予約の方から優先入場となりますので、前もって時間と枚数をお知らせいただくと助かります。どうぞよろしく申し上げます。

〔あらすじと解説〕

僕らはあこがれでできている。毎朝電車で見かける先輩への。ピアノを教えてくれたやさしいお兄ちゃんへの。今はとめつけられて動けない純粋な心は、いつか大空を渡り、あの人の元へ、飛ぶ。胸がキュンとしてちょっぴりせつない物語です。

「くうきに出たい」という一人の青年の願いから生まれた『初劇ゆにっと自由律』。

初舞台、初脚本、初演出、初客演と「初めて」がいっぱいですが、「自然に、素直に、真剣に」をテーマに真摯に演劇に取り組んでいます。0が1になる瞬間をぜひ見に来てください！

くうきプロジェクトのブログはこちら↓

<http://ameblo.jp/ku-ki-project/entry-11112603255.html>

追記：

出演映画「私の叔父さん」の情報が公開されています。よろしければ僕のブログにも遊びに来てください。

<http://ameblo.jp/hibi-kin/entry-11122703801.html>

俳句と酒

瓦口 龍

『竿灯を 女泣かの 腰のうえ 鷹羽狩行』

川柳は分かるが俳句は難しいとよく聞きます。楽しい時、美しい、悲しみ、愛、そしてやってやろうと前向きになった時、その時々 of 想い、感動を自分の言葉で表現するのが俳句です。決まり事は、五七五の定型詞、季語が一つ入っているの二点です。

『メールにて 八百屋長兵衛 大繁盛』 これは川柳

『はびこりし 八百屋長兵衛 寒戻る』 句友の智恵子さんが句会で発表した句で、秀を取りました。感じたことを観念的な言葉を使わずに花や鳥、風、月などの物に語らせるということが、旨いと言わせる酒を造る杜氏の苦労と同じです。

一人酒場で呑む酒は男涙の味がする… は流行歌ですが、爛二合洞海湾は俺のもの… は俳句です。竿灯の揚句は秋田市の竿灯祭りを詠んだ句です。秋田杉に見立てた太竹に何本もの横竹を渡して46個の提灯をさげ、竿頭に御幣を飾った大小二百余りの竿灯が大通りに林立します。額や肩、腰、手などに乗せてバランスを取りながら練り歩く東北三大祭りの一つです。(俳句歳時記 角川書店 参考)

エロス、ユーモア、磨きぬかれた感性が伝わってきます。何よりも、その情景が一瞬に浮かんできます。そして竿灯を腰に乗せて懸命にバランスを取っているのは、はらぐち酒店で一杯呑んだ貴兄です。『提灯の 山笠(やま)のはじける 男坂』『地に伏して 神を迎える 山笠(やま)始め』『上宮の 壁に掛けたる 祭り鉦』『奥蔵 覗けば 聞こゆ祭り笛』祭りを季題にした私の句ですが、竿灯の… 句のようなスパッ、ニヤリ、ウームというキレがありません。

キレのよさ、余韻、スパッとした雑味なしの透明感、ニヤリ、ウームそしてリズム感、それは酔ごち。俳句は酒に酒は俳句に真っすぐに通じています。素晴らしき呑兵衛はすでに素晴らしい俳人なのダーッ。

とは申せ、いまだにこれが俺の句だ、というものがありません。また、角打ちの奥深さも口に合わない酒は分かるが、口にする酒のどれもが旨くていまだ右往左往の現状です。そんな私にとって、はらぐち酒店のワンコイン試飲会はまたとない修行の場です、素晴らしい企画。

「はらぐち酒店に乾杯」
「先輩諸兄に乾杯」
今年も宜しくお願い致します

正月明けの日曜日、区内の図書館から電話が入り、予約しておいた本の順番が来た、と知らせてきました。予約したのは去年の年明け。「市立図書館にその本は12冊あるが、すでに3ケタの予約があるので、かなり先になる」とは聞いたが、まさか1年かかるとは。活字離れの裏側で、本のニーズがこんなに高まっているとは知らなんだ。いや、うれしいことです。文章の達者な女性の増加と関連があるかも。今年は、ワイらも負けずによく呑み、よく書いて、自分のアピールに弾みをつけようやないか、こんやた！
(ぼんぼん仙)

「おめでとう」がちょっと言いづらい年のあけですが、お蔭さまで「はらぐち閑話その6」を発行することができました。これも皆さまのご理解とご尽力の賜物と感謝しております。

昨年は東日本大震災、福島原子力災害など未曾有の大惨事、また、国政の迷走と今までにないことを経験しました。「日本力」が発揮されるであろう建国元年に期待したい。

新年号より、「はらぐち閑話」の字体を変えました。筆者は誰か推理してみてください。

「まあ、ゆっくり世間話をしていきませんか。お茶でなくお酒を呑みながら」。

投稿をお待ちします。題材、文の長短を問いません。「酒」に縁のある内容であれば言うことなしです。

投稿は、はらぐち酒店に預けていただくか、kei2@bronze.ocn.ne.jpへ宜しく申し上げます。

「はらぐち閑話」は、はらぐち酒店HP(<http://homepage1.nifty.com/haraguchi/sake/>もしくは、戸畑はらぐち酒店で検索してください)の「かくうちの部屋」でご覧いただけます。

次回発行は3月8日(2月29日締切り)とします。

(今朝の鮭)

はらぐち酒店: 北九州市戸畑区中本町4番9号

電話093-871-2150

sake-tobata@nifty.com